# 令和５年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（〇良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）

## 【　国語　】

平均正答率は全国平均を５％以上下回っています。学習指導要領の内容５項目中、４項目で全国平均を５％以上下回っています。評価の観点別では２項目とも、問題形式では３形式とも、全国平均を 5%以上下回っています。ペーパーテストで測ることのできる国語の学力には課題があると言えます。

**≪言葉の特徴や使い方に関する事項≫**

●漢字を使って書く設問３問は、いずれも５年生配当の字でしたが、いずれも正答率は全国平均を 10%以上下回っています。

**≪情報の扱い方に関する事項≫**

〇2 問の設問いずれも、正答率は全国平均を 5%以上、上回りました。

**≪話すこと・聞くこと≫**

●インタビューの様子を表した文章からの設問３問中２問で、正答率は全国平均を 5%以上下回っています。１問はほぼ全国並みの正答率でした。

≪書くこと≫

100 字以内で、指定された条件を満たすように問題文に続く部分を書く１問でした。全国的に正答率の低い設問で、本校もほぼ同様でした。

**≪読むこと≫**

複数の資料から、必要な情報を読み取る設問が３問ありました。２問は全国平均を 5%以上下回りましたが、１問は全国平均を 5%以上、上回りました。

**≪児童質問紙　国語に関する質問≫**

●国語に関する質問に対しては、全国平均と比べてネガティブな回答が多いという印象です。他者と話し合うことで自分の考えをまとめていく、書いたものをお互いに読み合って自分の文章の内容を深めていく、表現に着目して物語文を読む、という学習態度が身に付いている児童の割合が低めです。

●半数を超える児童が、国語の問題を解く時間が足りなかった、と回答しています。（全国は約 30%）初見の文章を自力で読むことに時間がかかる、長文の問題文の設問の意図をよみとることに困難があるのだろうと思われます。最後の設問は、適切な敬語を選択するという、難問とは言えないものでしたが、無回答率が 20%を超えていました。最後の設問まで時間内にたどり着けなかったのだと思われます。テスト慣れしていないことも原因でしょう。

## 【　算数　】

平均正答率は全国平均を５％以上下回っています。領域別では、４領域中、２領域で全国平均を５％以上下回っています。評価の観点別では２項目とも、問題形式では３形式とも、全国平均を 5%以上下回っています。ペーパーテストで測ることのできる算数の学力には課題があると言えます。

**≪数と計算≫**

●６問の設問中５問で、全国平均を5%以上下回っています。いずれの問題も計算自体は難しいものではありません。この調査の問題形式に慣れていないことが原因だと思われます。

**≪図形≫**

●４問の設問中３問で、全国平均を5%以上下回っています。２年生から５年生で学習した三角形・四角形の性質を理解しているかどうかが問われる問題です。学習の積み重ねにやや難があると思われます。

**≪変化と関係≫**

３問の設問中１問が、全国平均を5%以上下回っており、２問は全国並みです。５年生で学習した比例の理解が充分ではないことが伺われます。

≪データの活用≫

３問の設問全てが、全国平均並みの正答率でした。表やグラフから必要な情報を読み取る力はまずまずと言えます。

**≪児童質問紙　算数に関する質問≫**

〇算数の解答時間が足りなかった、という回答率は全国よりも低いもので、実際に最後の設問の無回答率はゼロでしたので、問題を解くこと自体には問題はないと思われます。

●算数が好きか、算数の授業の内容はよく分かるか、という質問に対する肯定的な回答の割合が全国平均を5%以上下回っていることは、課題です。

**◎児童質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等**

通塾率が低い。

授業の中での ICT 機器の使用頻度が高い。

●全体的にポジティブな姿勢を見せる率が低め。

●学校の先生への信頼度が低め。

●家庭での学習時間は短い率が高い。

●授業以外での読書時間が短い率が高い。図書館に行く頻度が低い率が高い。

**◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと**

学校での日々の学習を確実に行っていかなければいけないということを、再確認させられた調査結果でした。質問紙の結果から、約 60%の児童が、学習塾や家庭教師に勉強を教わっておらず、同じく約 60%の児童が、学校外での学習時間が 1 時間に満たないということがわかりました。また、主体的に学習に取り組む姿勢があるかを見る質問に対しても、肯定的な回答をする割合は低めです。学習への取り組み方から、丁寧に指導をしていく必要があります。

今後、学力を高めるために力を入れるべき点は、読解力と課題に粘り強く取り組み続ける力を伸ばしていくことです。単純なドリル練習を繰り返すだけではこういった力は伸びません。HOW TO を身に付けるだけに留まらないよう、なぜそうやるのか、ということを常に問い続けるよう、指導する側が意識する必要があるでしょう。

教職員全員が以上のことを共通理解した上で、低学年のときから指導に当たっていくことで、子どもたち一人ひとりに学習内容が積み重なるようにし、学力向上に繋げていきます。